

「春よ来い」

「春よ来い、早く来い」。

童謡の歌詞のように、みいちゃんや桃の木の気持ちを慮^{おもんばか}ってではありませんが、そうやって強く命令調で言いたくなるくらい、景気の春はなかなかやって来そうにありません。アメリカの金融危機に端を発した百年に一度と言われる世界的な経済不況は、わが国や地域の経済にも深刻な悪影響を及ぼしてきています。景気は昨年の秋から一気に厳冬に突入して、そこからなかなか抜け出す気配が見えないのが現状です。

一方で、当然ながら地球の自転、公転は動きを止めることはなく、季節は移り変わり、自然の春は確実に巡ってきています。同時に、卒業や退職、そして入学や進学、就職など、別れと出会いの交差する社会の春も、いつもと同じように展開されていきます。ただ、自然の春は、例年とほぼ同じ姿を見せ、社会的行事なども同様に展開されていっても、それぞれの個人レベルでの人の春の様子は一年前と同じということはありません。唐詩で詠まれた「年々歳々 花相似たり 歳々年々 人同じからず」のとおりです。

景気の春はまだまだ遠くても、人にとって今年の春は一度しかないもの。「こいつあ春から」とばかり、何か良い出来事を期待する人も多いことでしょう。

以前にもご紹介しましたが、思わぬ幸運に偶然出会う能力（または、幸運との出会いそのもの）を「セレンディピティ」といい、それを最終的に生かすのは人間のひらめきであると脳科学者の茂木健一郎氏は述べています（※）。そして、「セレンディピティ」を起こすための条件として、まず行動すること、些細な兆候にも気づくこと、など6つの心掛けを挙げ、これらを普段から実行し、脳の中にいざ幸運に出会えばそれを生かすための（ひらめきを生むための）空白を作っておくと良いのだそうです。

英語でもハプニングとハッピーは語源が同じです。思わぬ出来事（ハプニング）が幸せ（ハッピー）をもたらす確率は高いものがあります。そのために、まずは行動を起こすこと。思わぬ幸運が多くの方に訪れる春になればと願っています。

※「ひらめき脳」茂木健一郎（新潮新書）